

令和8年度 鈴峰中学校 校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	「自ら学ぶことのできる生徒の育成」 ～ 探究のプロセスと教科の見方・考え方を通して ～
教科・領域	授業を中心としたすべての教育活動

2 主題設定の理由

令和4年度の校内研修の中で、本校の生徒の実態をKJ法で整理したところ、「指示されたことは一生懸命取り組むことができる素直さがある反面、受け身や指示待ち、粘り強く取り組む力が弱い」といった課題があることが明らかになった。そこで、「自ら学ぶことのできる生徒の育成」を目指した。

令和5年度は、春日井市の取組を参考に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をさせるための実践を試みた。ここでは、探究のプロセスと教科の見方・考え方について、生徒に学習をゆだねるからこそ教員一人ひとりが大切にしているものを言語化し生徒と共有することの必要性に気づき、引き続き実践・研究を重ねていくことにした。

令和6年度は、「自ら学ぶこと」を探究の4つのプロセスに沿って学習を進めていくことと定義し、生徒が課題を発見し、その解決に向けて生徒自身が学習をコントロールすることができるような力（学習における自己調整力）を育成するための場面や手立てを授業の中に組み込んでいくことを目指して、実践・研究を継続していった。その中で、「学習環境を整える」「つけたい力を明確にする」「教師の見取りの力の向上」「生徒が自己調整できるルーブリックの設定」といった課題も見えてきた。

令和7年度は、これまでの実践・研究から見えてきた課題を踏まえ、生徒が学習方法を選択したり、自ら課題を設定したりする場面を設け、指標となるような学習の手引きやルーブリックを提示するなどの授業改善に取り組むとともに、学年ごとに探究のプロセスと教科の見方・考え方を意識した実践をした。

令和8年度は、前年度の実践から教科の見方・考え方について教員同士の認識

に違いがあることがわかり、教科の見方・考え方の基礎となるものを「教科の守」として定義づけ、各教科の見方・考え方を明確にすると同時に、探究のプロセスとのつながりも意識し、実践していくことで研究を深めていくことにした。また、生成 AI を授業に導入するにあたっての研究も進めていくことにした。

3 研究構想（令和 8 年度鈴教研委託研究発表を見据えて）

令和 5 年度：研究（郊外から情報を収集し実践を重ねる）

令和 6 年度：発信（重ねた実践を伝える）

令和 7 年度：拡散（研修部と先生の双方向で実践を高める）

令和 8 年度：常態化（重ねた実践をいつでもできる）

4 研究内容及び方法（具体的な手立てまで詳しく書いてください）

（1）授業改善の取組

- ① 「授業力 UP5★ ver. 2」に基づいた授業づくり
- ② 探究のプロセスを意識した授業の展開
- ③ 生成 AI を活用した授業の研修

（2）公開授業研究会の実施

- ① 指導案作成と指導案検討
- ② 授業参観の視点の共通理解（探究のプロセス、教師の見取り etc.）

（3）非認知能力の育成

- ① 承認活動「いいところみつけ」の取組
- ② 特別活動（学級活動、学校行事、生徒会活動）による非認知能力の育成
- ③ 日常的な S S T の取組

（4）日常的な取組

- ① 家庭学習の充実
- ② 補充学習（テスト期間、夏季休業中）の実施

（5）その他

- ① 研修部を中心とした授業改善のための研修の推進
- ② 教科の見方・考え方を深めるための教科部会
- ③ 先進校視察や他校の授業研究会等への積極的な参加
- ④ 小中連携による学力向上の取組

5 探究のプロセスの捉え方

課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
「なぜ～なのだろう」 「～ができるようになりたい」などの課題をみつける。	解決に必要な情報を集める。 集め方を選択する。	比較、条件替え、違う視点など、情報を整理して考察する。	相手や目的に合わせてまとめる。

6 年間研修計画

一 学 期	4月：職員研修① 学級経営（生徒指導主事） ：職員研修② 主体的な学びについて 5月：職員研修③ 7月公開授業に向けて 6月：職員研修④ 指導案検討会 7月：公開授業研究会（プレ公開授業） 8月：鳴門アンケート及び学調・みえスタの分析 小中合同夏季研修会 職員研修⑤ 生成AI研修
二 学 期	9月：職員研修⑥ 教科内公開授業〔予定〕 10月：職員研修⑦ 指導案検討会 11月：職員研修⑧ 発表に向けて〔予定〕 （11月6日）鈴教研委託研究発表 12月：鳴門アンケート推移分析
三 学 期	1月：職員研修⑨ 特別支援関係〔予定〕 2月：みえスタ（2年生）の分析 3月：今年度の総括と来年度の取り組み案作成